

## 「子供の学びを支援する学校経営事務をめざして」

～ 教育活動を支援する共同実践の展開 ～

福島県公立小中学校事務研究会 企画推進委員会

『福島県公立小中学校事務研究大会 第30回大会』の開催にあたり、今大会のねらいと課題について提起いたします。

現在、学校は「生きる力」「豊かな学力」の保障とともに、「いじめ」「不登校」など子どもたちを取り巻く課題の解決が重要となっています。また地域住民の声を反映した子どもたち一人ひとりに応じたきめの細かい教育が求められています。それらに的確に対応するためには、自主性・自律性が発揮できる学校経営や教育活動に専念できる体制づくりが必要とされています。

昨年12月、中央教育審議会初等中等教育分科会でおこなわれたワーキンググループ会議において、教員が担当している部分も含めた学校全体の「学校事務の機能強化」について触れられました。その中で、課題解決には調整・渉外機能など学校事務の今日的役割の重要性をふまえた「学校事務の機能強化」が不可欠であるとの意見が出されました。今後は、学校事務職員による学校事務の完結など、キーパーソンの役割を担うことが期待されています。

県内においても、市町村合併による教育行政の変化や、少子化に伴う学校の統廃合が進んでいます。次代を担う子どもたちの教育環境をいかに高いレベルで保障できるのか、日々新たな課題が現れています。学校には保護者や地域の要望を的確に反映させ、自校教育についての説明責任を負うための「自校の教育活動の計画・実践・評価」が求められています。

昨年4月、私たち学校事務職員も含めた県内教職員に「目標管理制度」が導入されました。学校事務職員は総務・財務の職務遂行とともに、積極的な学校運営へ参画を目標達成の指針として定められています。

教育活動等についての評価や公開をとおして、学校運営の透明性を高め、課題解決への取り組みに向けた学校事務職員への期待に、私たちは答えていかなければなりません。

県事務研では、昨年「福島県事務研ビジョン」を設定し、私たちがめざす学校事務像と学校事務職員が進むべき方向性を示しました。学校における唯一の行政職スタッフとして、積極的に学校経営に参画し、学校や地域、教育関係諸機関との連携を図ると共に、責任ある仕事を遂行していくことを『めざすべき学校事務職員像』としています。

私たち学校事務職員は、魅力ある学校づくり、信頼される学校づくり、安全安心な学校づくり、機動的な学校づくりのため、研修により専門的知識や技能を高め、学校事務職員の持つ専門性を最大限生かすため『学校事務職員が進むべき方向』を

- 1 教育を推進する学校事務職員
- 2 教育関係機関との連携を図る学校事務職員
- 3 地域社会に貢献する学校事務職員

としています。

これらの理念を実現するために、私たち一人ひとりに求められることは、すべての学校事務職員が積極的に教育活動に関わり、家庭・地域社会・行政との強力な連携を築きながら、子ども達を育てていかなければなりません。

県事務研ではこれからの事務研活動の方向性を設定した第四次長期研修計画(カリキュラム編)を会員に配布しました。この計画を具現化し、これまでの研修・研究の成果と課題、協議の柱と論点を整理して、30年の節目を迎えた県事務研のさらなる活性化を図っていきます。

今大会では、テーマを「子どもの学びを支援する学校経営事務をめざして」とし、サブテーマ「教育活動を支援する共同実践の展開」を掲げました。各学校が自主性・自律性を確立し「特色ある学校づくり」を進める中で、学校事務職員が地域や子どもの実態を把握し、学校事務改善に向けた研究・実践を進めること。また教職員の協力を得ながら協働により共同実践していくこと。これらを論点として整理し、協議を進めます。

各分科会のねらいは以下のとおりです。

## 第1分科会

### 「会計事務システム化をめざして(中間発表)」

学校には、教育活動を支える経費として、公費の他に学校徴収金などの私費があります。私費会計もまた公費会計同様取扱規程に則った適正な事務処理や事務処理手順、さらにチェック機能が求められています。このことを踏まえ、会計事務のシステム化をめざしたモデル案を提示します。

## 第2分科会

### 「望ましい学校教育予算と予算執行に係る財務会計実践研究」

昨年、合併によって南相馬市が誕生しました。合併後の公費予算について、また相馬地方全体における教育予算の問題を整理し発表します。学校規模別教育予算の現状を確認し、公費予算の確保や保護者負担の軽減を図るための実践例を報告し研究協議を行います。

## 第3分科会

### 「効果的な備品管理の一手段」

#### ～パソコンを利用して備品配置図を作成しよう～

市監査より備品配置図の提出を求められていることから、各学校ではそれぞれ工夫をこらした配置図を作成しており、備品照合等において大いに効果をあげています。これらの内容を紹介し、パソコンを利用した配置図の作成等、参加者とともに演習を行いながら分科会を進めます。

## 第4分科会

### 「行政との連携における学校事務改善と標準化に向けて」

#### ～市町村合併に伴う課題解決のための実践と展開～

県内では90市町村から59市町村へと市町村合併が行われました。しかし、合併後の学校では様々な問題も生じています。それらの課題に市町村と事務研が連携して取り組んでいる地区の実践を紹介し、教育委員会や教育関係機関との連携のあり方、学校事務の改善と標準化について協議を深めます。

## 全体研修

学校教育は、教育目標の具現化に向け教職員の連携と協力の下に進められています。学校事

務職員が学校経営に欠かせない職員として、今後どのような役割を果たしていかなければならないのか、学校事務部門の強化や学校経営参画への意義と方法などについて、パネルディスカッション及び講演を行います。学校事務職員が果たすべき役割と任務、学校事務職員の学校経営参画の意義とその方法について考えていきます。

これまでの29回の研究大会は各支部の実行委員会により行われ、各地区事務研の交流がはかられてきました。今年度から県大会の会場が郡山市周辺となったため、支部交流の場として大会会場に県・支部事務研交流コーナーを設けました。「県事務研30年の歩みと各支部の平成18年度の活動」として、今までの研究集録・記念誌・会報の展示を行います。

平成20年度は、県大会とともに東北大会・全国大会を併せて行うことが予定されています。また、21年度より県事務研研究大会は隔年開催となりますが、基本となるのは学校事務職員一人ひとりの意識の高揚です。

さらに充実した実りある研究大会となるよう皆様のご協力をお願いいたします。